

1. 開催日時 平成24年2月9日(木) 18時30分～20時30分
2. 場所 慶應義塾大学大学院SDM研究科 6階大会議室
3. 発表者 政井技術士事務所
代表 政井 寛氏
4. 出席者 18名
5. テーマ 「IT業界 サービスビジネスと技術者の展望」
6. 講演概要(学会WEB掲載、当日配布PDF資料ご参照)

自己紹介としてIT業界での経歴の説明があり、その後に本論となりました。

(1) IT業界の3K説を検証する

- ・ IT技術者の労働時間は他業種に比較し若干長いが、給与水準は上位中の下である。
- ・ 社会人の仕事に対する満足度は7業種中最低。学生から見たITの仕事に興味がない理由は、適性が無い、仕事にストレス、労働時間が長そうである等が上位である。
- ・ 業界の構造の特徴は、ITサービス企業従事者は、103万人、ユーザー企業は、25万人で、米国では逆転してITサービス企業従事者は、113万人、ユーザー企業は、217万人の状況である。何故こうなっているか。
- ・ IT技術者のキャリア・パスについては、ユーザー大企業・中堅企業の場合、メーカー系、大手Sier、中堅中小企業の場合の各々について説明がなされ加えて、下請・派遣系の技術者については将来への不安が生じやすい。
- ・ 技術者をダメにする階層構造が3Kの元凶である。つまり、お客様/元受会社、特定派遣中心の中堅・中小ITサービス企業、派遣・下請け技術者の関係の中で下層の技術者が使い捨てにされ、また、能力評価が正当にされず挫折/疲労感が生じていて3Kと言われる原因となっている。
- ・ サービスビジネス(コンサル、アプリ開発SI、ITマネジメント(インフラ保守他))分野のTOP5ベンダーのシェアは、引き続き高く60%近く、ビジネスプロセスについては30%である。日本は垂直型の業界構造が明らかで、米国では上位10社でもシェアは、30%未満の状況である。
- ・ 3K(きつい、帰れない、給料が安い)については表面的に他業種と比較しても意味がなく下請け企業の技術者について3Kの可能性が高いと言える。

(2) ビジネスと技術者を変える大きな潮流

グローバル化、クラウド化、日本独特の社会現象が潮流である。

- ・ グローバル化の影響として、結果的に日本のIT技術者の仕事が奪われる。
- ・ クラウドの進展で、IT技術者の仕事の質が変わる。
- ・ 日本独特の社会現象により、IT技術者が保守化する。

以上の流れで情報化社会を支える日本のIT技術者能力が停滞するが、乗り越えないと日本企業、強いては日本の国力が沈滞し世界から置き去りにされる。

(3) 日本のサービスビジネス事業は今後どうなるか

- ・ コンサルテーション・開発/SIの市場規模は今後、横ばいの見込みである。
- ・ ITマネジメント(IT基盤運用管理、アプリケーション運用管理)については減少しビジネスプロセス市場は、市場規模は小さいが増加の見込みである。
- ・ 今後は、組込みソフトと業務ソフトの融合する領域が成長分野として見込める。ネットワークの利用により組込みシステムの統合化とコンテキスト・アウェア(製品の使い勝手や人間の感性に配慮する領域)が融合する大きな業務領域となる。
- ・ 今後企業の事業戦略実現のカギはITが担うことが多くなる。単なるツールではない。従ってそれを支えるIT技術者の存在は重要であり、期待も大きい。
- ・ 今後、望まれるIT技術者像は、企業、官公庁、自治体でITを有効に正しく使う為の仕

掛け人・実現者・エバンジェリストである。

(4) これからのIT技術者育成の留意点

- ・ 従来と異なってくる社会環境であることを意識し、企業と個人が対等な立場であるとの認識に立ち、個人が自律性を発揮でき、自己裁量のある職場を企業は確立すべきである。
- ・ IT技術者のモチベーションを高めるモチベーション3.0（ダニエル・ピンク提案）の環境を確立することが重要である。（モチベーション3.0はIT技術者と相性が良い）
- ・ IT技術者として、その能力形成には社会人基礎力（人間力）が欠かせない。
- ・ ダイバーシティを意識した人事戦略が企業には必要である。また、個人でもダイバーシティを受け入れる包容力を身につけたい。
- ・ 今後、従来のIT技術者は更に専門技術を向上させた専門家となり絶対数は減少する。一方、ITシステムを活用するための、ユーザーとITの架け橋になるITプロデューサーが重要となり大量に必要な時代が到来する。

(5) 根源的な課題は何か

- ・ 本物のCIOが大幅に不足しているので育成する。（ユーザー側のCIOがITサービスの成果に大きな影響を与えるので重要）
- ・ ベンチャー型IT企業が生まれやすい環境が必要。
- ・ サービス・イノベーションを実行可能できる人材育成をする
- ・ ITの利用を促進し、高度情報化社会を目指すにはサービスビジネスは必須である。付加価値の高いビジネスをするにはサービス・イノベーションを起こす豊富な人材の輩出がキーとなる。

（発表以上）

以下に主要な質問・感想等を記述します。

- ・ IT技術者については、職種を一括して論議することは困難では。
- ・ CIO育成は、ユーザーのみでは無くIT業界での人材育成上も課題ではないか。
- ・ 学生はコンテクスト・アウェアには興味はあるが、情報システムには興味はない。
ITプロデューサーには、組込みソフトウェアの知識も必要となると今の学生は、前に踏み出す力が不足しているので育成をどうするかが課題である。
- ・ IT技術者とIプロデューサーとCIOの関係について聞きたい。

以上

（記録：伊藤重隆）